

## 言語文化研究科

学位プログラム： 日本語・日本文化

授与する学位： 修士（日本語・日本文化）

### 教育目標

---

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおり教育目標を定めています。

#### ○最先端かつ高度な専門性と深い学識

日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶ人材を養成することを目標としています。

日本語・日本文化に関する最先端かつ高度な専門性、深い学識、教養、デザイン力、そして国際性を身に付けた人材の育成を目標としています。

#### ○高度な教養

既存の学問領域に捕らわれず、高度な教養を身に付け、日本語と日本文化に関する高度な専門性と深い学識に加え学際的観点から複眼的、俯瞰的に思考し、多角的に評価できる力を養います。

#### ○高度な国際性

グローバル化や情報化が進展する今日、外国語能力を含む国際性を身につけた人材の育成を目指して、日本語・日本文化を他の言語・文化と比較対照する視座をもって研究する能力、日本語・日本文化を他の言語・文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力、異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化を持つ人々の間に立ち多言語・多文化間の調整を行う能力を養います。

#### ○高度なデザイン力

言語と文化に関する高度な専門性と深い学識に加え、それを国内外にわかりやすく発信するデザイン力、加えて、外国語能力を含む国際性を身につけた人材の育成を目標としています。

学位プログラム「日本語・日本文化」で進める研究は、日本語と日本文化の研究にとどまるものではなく、世界の言語文化の研究につながるものであり、日本語・日本文化の教育研究を通じて、日本を発信し、あるいは世界の諸言語・諸文化に対する共感を深め、日本と世界を架橋する人材、ひいては世界の平和と安定に寄与する人材の育成という目標に向かって、これまで以上に積極的に応えていきます。

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

---

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「日本語・日本文化」は、日本語・日本文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士前期課程では、以下の「学習目標」を達成したと判定された学生に修士（日本語・日本文化）の学位を授与します。

### ○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・日本語・日本文化を他の言語・文化と比較対照する視座をもって研究する能力を有する。
- ・日本語・日本文化を他の言語・文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力を有する。
- ・異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化を持つ人々の間に立ち多言語・多文化間の調整を行う能力を有する。

### ○高度な教養

- ・日本及び国際社会の多様な言語文化事象に関して、既存の学問分野に捕らわれない、学際的で幅広い興味・関心及び高度な教養を有する。

### ○高度な国際性

- ・学際的で幅広い教養に裏打ちされた日本語並びに外国語の高度な言語運用能力を有している。
- ・日本語・日本文化を他の言語・文化と比較対照する視座をもって研究する能力を有する。

### ○高度なデザイン力

- ・日本語・日本文化を他の言語・文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力を有する。
- ・異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化を持つ人々の間に立ち多言語・多文化間の調整を行う能力を有する。
- ・自分の専門分野について、独創的、論理的、説得的に、研究を展開することができ、またそれを効果的に発信することができる。

### ○独自の学習目標

- ・目指す人材育成を実現するため、以下の「学習目標」を設定しており、それらの目標を達成したと判定された学生に修士（日本語・日本文化）の学位を授与します。

- 1 学際的で幅広い教養に裏打ちされた日本語並びに外国語の高度な言語運用能力を有している。
- 2 言語文化に関して、外国語文献を含む高度な文献を的確に読み解くことができる。
- 3 複雑化した種々の問題に対し、その解決のために専門的知識を活用することができる。
- 4 日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学の学際的な関連諸分野について、幅広い知識や問題意識を有している。
- 5 自分の専門分野について、独創的、論理的、説得的に、研究を展開することができる。
- 6 自分の専門分野において、学術誌に掲載されるような論文を執筆することができる。
- 7 自分の専門分野において、研究発表をするための高度なプレゼンテーション能力を身につけている。
- 8 自国の文化に関する深い見識を基盤として、異文化に対して偏見のない柔軟な見方ができ、文化を超えて真に人間的な交流ができる。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

---

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「日本語・日本文化」の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行われます。

### <教育課程の編成の考え方>

教育目標に定める人材を育成するため、専門教育科目として、日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学のいずれかの領域（系域）に関する専門科目に加え、それらすべての基盤となる横断的基礎科目として、総論科目を設け自らが専門とする系域の関連領域についても学べる態勢を整えて、カリキュラムを編成しています。さらには、大学院横断教育科目の履修を推奨し、幅広い知見を基盤におくことによって、より高度な専門分野の研究を推し進める態勢をとっています。授業科目の単位の授与は、学期末等に行う筆記試験、口頭試験又は研究報告等の判定結果に基づいて行います。

また、学位プログラム「日本語・日本文化」においては、各教員が「研究指導」科目を設定し、特に外国人留学生の研究指導について、きめ細かな指導態勢をとっています。

### <学修内容及び学修方法>

授業形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れつつ、各専門教育科目の教授内容に合わせ、講義、演習等と様々です。

また上記のようにして得られた高度な研究成果も、他者にわかりやすく発信する「デザイン力」がなければ意味がありません。そのため、学位プログラム「日本語・日本文化」においては、外国語能力を含むプレゼンテーション能力、広く「発信する力」をつけるため、教員が一方向的に知識を授けるタイプの授業ではなく、学生側から発信し、学生間で、あるいは学生と教員の間で自由闊達な議論がおこなわれるよう授業を充実させることによって、デザイン力の育成をはかります。また日本語・日本文化を発信する国際的な場で活躍するために必要な、海外での研究集会やワークショップの企画・立案・交渉・運営にかかわる実践的能力を育成するために、新たに「日本語・日本文化海外特別研修」の授業を提供しており、具体的には、海外研修中はマヒドン大学（タイ）とのジョイントキャンパスを拠点として、現地で日本語・日本文化を専攻する大学院生との学術交流会の実施・運営に従事することができます。

学生の研究課題や論文作成の指導については、1名の学生に対し1名の主指導教員と1名の副指導教員、都合2名の指導教員が修士論文の指導に当たります。さらに、最終審査は3名からなる審査委員会で行います。

学位プログラム「日本語・日本文化」が考える「国際性」とは、単に外国語の運用能力のことだけをいうではありません。自国の文化の深い見識を基盤として、異なる文化に対して偏見のない柔軟な見方ができ、文化を超えて真に人間的な交流ができる人材のことです。

### **<学修成果の評価方法>**

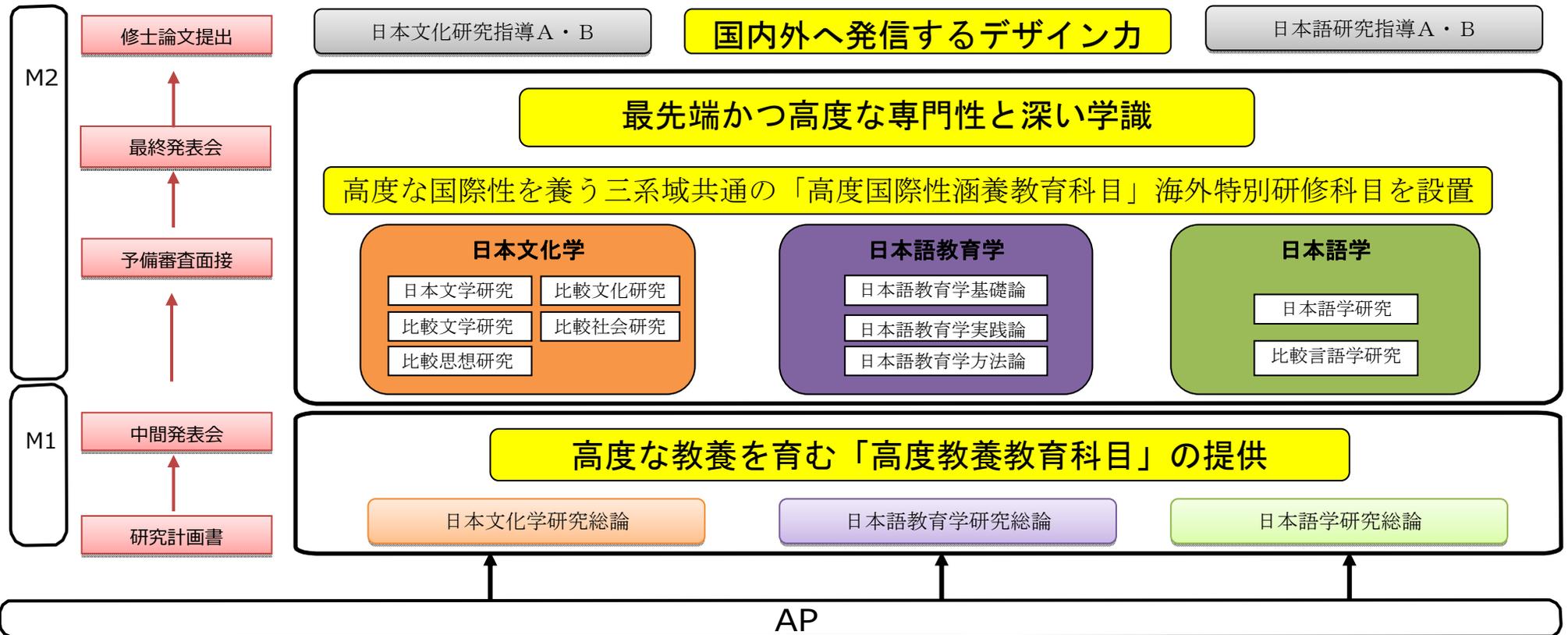
学修の成果は、各科目のシラバスなどに記載されている/定められている学習目標の達成度について、記載されている/定められている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）を用いて評価します。

以上のように、学位プログラム「日本語・日本文化」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を学生が達成できるように、授業の開講と研究指導の両面で、高度かつ多面的なカリキュラムを提供しています。

# 言語文化研究科 日本語・日本文化専攻

修士号取得（日本語・日本文化）

DP（博士前期課程）達成



○修了要件単位数：[専門教育科目 20 単位以上，高度国際性涵養教育科目 2 単位以上，高度教養教育科目 2 単位以上] を満たした上で，合計 30 単位以上を修得